

令和8年5月20日
山鳥坂ダム工事事務所

川の生き物で水質を調査！

～地元小中学生が河辺川の生き物を捕まえて水質の調査を実施します～

山鳥坂ダム工事事務所は、地元小中学校の協力を得て、河辺川の水生生物を採集し、その生息状況による河川水質の簡易調査を行います。この調査を通じて、身近に流れる河川の水質を知ること、郷土の川への関心を深め、水質保全・河川愛護の普及・啓発を図ることを目的としています。

水生生物による水質調査では、小中学生が採集した川の中の生き物（水生生物）の種類や数を指標として水のきれいさを簡易的に評価します。

また、パックテストと呼ばれる水質簡易測定器を使用して、水のきれいさを測定します。

■実施日時・参加校

令和8年5月27日（水）10:00～11:30

【肱川小学校 3,4年生19名・河辺小学校全校生2名】

（調査予備日：令和8年6月3日（水） 同時刻）

令和8年6月15日（月）8:30～10:00

【肱川中学校 1年生17名】

（調査予備日：令和8年6月22日（月） 同時刻）

※前日及び当日の天候により延期。または、中止になる場合があります。

■場所

肱川複合公共施設うらの河原



過去の調査の様子（水生生物の採集）



過去の調査の様子（水質判定作業）

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所

TEL (0893) 34-3000 (代表)

副 所 長 高島 愛典 (タカシマ ヤスノリ) (内線：205)

◎調査設計課長 水島 悠輔 (ミズシマ ユウスケ) (内線：351)

◎：主な問い合わせ先

令和8年度 地元小中学生との水生生物調査による水質の簡易調査について

1. 目的

「水生生物調査」とは、川にすむ生き物を採集（調査後、元の川に戻します。）し、その種類を調べることで、水質（水のきれいさ）を判定する調査です。

身近な自然とふれあうことで、環境問題への関心を高めるとともに広く水環境保全の普及啓発を図ることを目的に、昭和59年度から環境省及び国土交通省が全国で実施している調査です。水質判定の指標となる水生生物一覧と水質階級については、別紙-1、2をご覧ください。

2. 主催

国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所

3. 実施日時及び場所

協力校	月 日	調査時刻	河川名	調査場所
肱川小学校 (3, 4年生) 河辺小学校 (全校生)	5月27日(水)	10:00~11:30	河辺川	肱川地区複合公共施設 うらの河原
肱川中学校 (1年生)	6月15日(月)	8:30~10:00	河辺川	肱川地区複合公共施設 うらの河原

4. 調査概要

1) 調査方法

調査の方法は、川に入り、石の下や間に付着している水生生物等を採集し、その種類や数を把握することにより水質を判定します。

2) 水質判定

水質の判定は、採集したカワゲラ等の水生生物の種類や数を指標に4段階の水質階級をもって評価します。

水質階級	I	II	III	IV
水 質	きれいな水	やや きれいな水	きたない水	とても きたない水

3) その他

当日、簡易水質調査としてパックテスト（COD、pH）を併せて実施する予定です。

水生生物調査 実施場所位置図



水生生物調査

水生生物調査

川の中には様々な生きものがすんでいます。特に川底にすんでいる生きものは、過去から調査時点までの長い時間の水質の状況を反映したものであり、**どのような生きものがすんでいるか**を調べることで、その地点の**水質(水よごれの程度)**を知ることができます。

この調査は、適切な指導のもと、小学生、中学生、高校生、一般の人々のだれもが簡単に行うことができます。

調査方法

本調査では、川にすんでいる水生生物のうち、**①全国各地に広く分布し、②分類が容易で、③水質に関わる指標性が高い**、29種を指標生物としています。

川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点毎に、I(きれいな水)、II(ややきれいな水)、III(きたない水)、IV(とてもきたない水)の4階級で水質の状況を判定しています。

水質階級と指標生物

きれいな水 (I) の指標生物		ややきれいな水 (II) の指標生物	
カワゲラ類	ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	ヘビトンボ	オオシマトビケラ	カワニナ類
ナガレトビケラ類	ブユ類	ヒラタドROMシ類	○ヤマトシジミ
ヤマトビケラ類	サワガニ	ゲンジボタル	○イシマキガイ
アマカ類	ナミウズムシ		
きれいな水 (I) とややきれいな水 (II) の両方で見られる生物 (指標生物ではない)			
チラカゲロウ	タニガワカゲロウ類	ニンギョウトビケラ類	ヒゲナガカワトビケラ類
きたない水 (III) の指標生物		とてもきたない水 (IV) の指標生物	
ミズカマキリ	タニシ類	ユスリカ類	エラミミズ
ミズムシ	シマイシビル	チョウバエ類	サカマキガイ
○イソコツブムシ類	○ニホンドロソコエビ	アメリカザリガニ	



指標生物 (29 種)

I きれいな水

ナミウムシ
石の表面にはりついていて、伸び縮みする中・下流部には外來種があることがある

ナミウムシ
直状のどがった突起
また、体に模様があるのも外來種
外來種 アメリカツノズムシ*

ヒラタカゲウ類
流れの速い石の表面にはりついている

カワガウ類
体ががんじょうな感じがする石の下やすき間にいる

アミカ類
急流の岩や石に設置ではりついている葉面をつくり、石が無く見えることもある

サワガニ
甲らに丸み
頭は赤〜茶色(クロスヘアイトボ米は黒)

ヘビトンボ
流れの速い石の下にひそんでいて、えものをおそ

ヨコエビ類
上流の石の下や水中にたまった落葉の層にいる

ナガレトビケラ類
流れの速いところにいる

ヤマトビケラ類
流れの少しゆるやかなところの石面に多い

チラカゲウ
流れのやや速いところにいる

ヒゲナガカワトビケラ類
流れの速い石の間に網をはってえさを集める体色は茶〜黒色

タニガワカゲウ類
体はヒラタカゲウ類に似ている流れの速いところにいる

ニギョウトビケラ類
流れが少しゆるやかなところの石面にいる

オオシマトビケラ
流れが少し速いところにいる

コガタシマトビケラ類
頭部の前縁に浅い凹みがある

ゲンシボタル
流れが少しゆるやかなところにいるカワツノをえたとする

ゲンツボタル
前胸の模様異なる

ヘイケボタル*

ツメは2本(カゲウは1本)

I, II 両方でみられる水生生物 (指標種ではない)

III きたない水

ミスムシ
落葉のあるところではきれいな水にもいる

シマイシビリ
背中が黒い
背中が黒い
背中に前後模様がある
伸びたり縮んだりする
尾の先に設置がある

タニシ類
流れのゆるやかなところにいる

ミスカマキリ
川では川岸の草の中などにいる

IV とてもきたない水

エラムミズ
くしゃのえら
腹部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる

サカマキガイ
多くの巻貝と違い、左巻き
流れのゆるやかなところにいる

モノアラガイ類*

アメリカザリガニ
北アメリカ産の外來種
流れのゆるやかなところにいる

ユスリカ類
2列のえら
腹部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる

チョウバエ類
2列のえら
腹部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる

汽水域 (海水が混じているところ)

II ややきれいな水

イシマキガイ
石や崖にはりついている
淡水域にはマシジミ*や外來種のタイワンシジミ*がいる

ヤマトシジミ
砂や泥の中にいる
淡水域にはマシジミ*や外來種のタイワンシジミ*がいる

III きたない水

イソコップシジミ類
石の下にいる
さわると丸くなる

ニホンドロコエビ
湖の上や中流にも淡水域のコエビと似ている

*のついている生物はよく似ていますが指標種 (水質判定に使う水生生物) ではありません。

*のついている生物はよく似ていますが指標種 (水質判定に使う水生生物) ではありません。